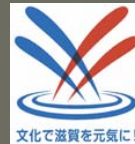


文化・経済フォーラム滋賀



News Letter

第2号 (2017年12月)

平成29年(2017年) 主な取り組み報告

平成29(2017)年1月～平成29(2017)年12月

平成29年も残すところあとわずかになりました。

発足して7年目の当フォーラムは、今年も会員の皆様はじめ多くの方々のお力添えにより、様々な事業を展開してまいりました。今年の当フォーラムの主な取り組みを振り返ります。

1月

■ 提言チーム研究会

「世界遺産」「日本遺産」および「日本遺産を活かした観光」について提言がまとめられました

[1月19日(木) 旧大津公会堂 会議室]

研究会では、これからの滋賀の文化と経済の新展開について語り合い、その結果を総会において提言しています。2月の第7回総会に向けて、昨年12月に実施した研究会での「世界農業遺

産」に引き続き、今回は滋賀県教育委員会文化財保護課の矢田直樹さんから「世界遺産・日本遺産について」、(公社)びわこビクターズビューロー専務理事 廣脇正機さんから「日本遺産を活かした観光について」と題して、話題提供していただきました。 *参加者 18人

2月

■ 第7回総会

総会に合わせ、基調講演と「2016 文化で滋賀を元気に！賞」の表彰式、交流会を行いました

[2月12日(日) びわ湖大津プリンスホテル プリンスホール]

総会に先立って行われた基調講演では、サントリー元副社長の津田和明さんをお招きし、「文化はムダでない」という演題で、文化は心を満たす人間にとって大切なものであることをお話していただきました。

講演に続き、「2016 文化で滋賀を元気に！賞」の表彰式が行われました。6回を迎えた2016年の「文化で滋賀を元気に！賞」には30件の応募があり、大賞「街中(まちなか)丸ごとアート文化賞」に選ばれた長浜芸術版楽市楽座運営委員会(長浜市)をはじめ、各賞5団体を表彰させていただきました。

大賞の長浜芸術版楽市楽座運営委員会は、長浜市の中心商店街で毎年10月に全国から200人以上の芸術家が集まり作品の展示・販売・実演を行う「長浜芸術版楽市楽座 ART IN NAGAHAMA(通称 AIN アイン)」を開催。2016年で30回を迎えた継続性と、イベントの開催が商店街でのギャラリーの開設やワークショップの実施など日常の活動に波及していることが評価されました。

各賞は以下のとおりです。

- * 彦根の楽しさ発掘文化賞
NPO 法人ひこね文化デザインフォーラム (彦根市)
- * 寄席で笑って元気に文化賞
笑ってもっと元気を出そう会 (大津市)
- * おひなさまで町おこし文化賞
日野ひなまつり紀行実行委員会 (日野町)
- * 絶滅危惧種ハリヨを残そう文化賞
旭化成株式会社守山製造所 (守山市)
- * 能楽を近江に伝える文化賞
滋賀能楽文化を育てる会(東近江市)

総会は、任期満了に伴う石丸正運さんの代表幹事の就任など役員改選等の議案を審議いただきました。

また、提言チームから平成29年の「文化で滋賀を元気に！」する提言が発表されました。タイトルは『世界遺産、無形文化遺産、世界農業遺産の登録等への取組を～地域の文化遺産を見直し、グローバルな評価へ～』。この提言を踏まえて、今年度以降の文化・経済フォーラム滋賀の事業が企画推進されていきます。

最後に交流会で、様々な分野で活躍する方々との親睦を深めました。

*参加者 基調講演113人、総会79人、交流会75人



6月

■ 情報発信部会

「文化で滋賀を元気に！シンポジウム」のテーマなどが話し合われました [6月28日(水) 旧大津公会堂 会議室]

平成29年事業を企画推進するため、情報発信部会(部会長井上建夫幹事)を開催しました。井上部会長から、2月の第7回総会で発表された提言を受けて検討する企画について説明があり、続いて(公社)びわこビジターズビューローの木村俊晴さんから、今年秋から実施の「日本遺産 滋賀・びわ湖 水の文化ぐるっ

と博」の話題を提供いただきました。そして井上部会長の進行で、平成29年新規事業「文化で滋賀を元気に！シンポジウム」のテーマなどを話し合いました。この部会で、地域資源を活かした観光には、地元と観光客との間に入り、コーディネートできる人材が必要であり、その成功例として「日本遺産」を活かした兵庫県篠山市の取り組みが上がりました。

* 参加者 14人

9月

■ 「第32回国民文化祭・なら 2017」「第17回全国障害者芸術・文化祭なら大会」開会式・オープニングフェスティバルを視察しました [9月2日(土) 東大寺大仏殿前]

国民文化祭は「文化の国体」とも言われ、昭和61年から毎年各都道府県持ち回りで開催されてます。滋賀県は未開催で、毎年、会員から希望者を募って視察を行っています。

今年は奈良県が開催県で、全国で初めて「第32回国民文化祭・なら 2017」と「第17回全国障害者芸術・文化祭なら大会」が一体開催されました。開会式・オープニングフェスティバルは、初秋19時からの東大寺大仏殿前広場を使った屋外会場で行われ、趣のある演出が印象的でした。 * 参加者 13人



10月

■ 文化経済アートステージ
会員様の社屋で演奏会を開催しました

* (公財)びわ湖芸術文化財団との共催
[10月7日(土) 甲賀高分子株式会社 会議室]

“ひととまちとアートが会う”をコンセプトに開催するアートステージは、今年で4回目になりました。今回は、湖南市の甲賀高分子株式会社様の会議室を会場に演奏会を開催しました。

会社紹介の後、県内外で活躍されている井伊亮子(フルート)、足木かよ(ヴァイオリン)、光永秀子(チェンバロ)の3人のアーティストの演奏とともに、この演奏会のために結成された同社社員の

ホルン三重奏「みらくる」にもご出演いただきました。

社員の皆さんとともに近隣地域の方にもお楽しみいただきました。

* 来場者 82人



11月

■ 第10回文化ビジネス塾
クラウドファンディング活用のポイントを教わりました

[11月14日(火) VOID A PART (彦根市)]

文化ビジネス塾は、第2回総会(平成24年)で発表された提言「文化ビジネスの開発で滋賀の文化と経済に新展開を」を具現化するために開催しているもので、文化ビジネスを実践している企業人から生の声を聞くなどしています。

第10回文化ビジネス塾は、文化・芸術活動に対するファイナンスという切り口で開催しました。夢や目標を実現させるために、インターネットを利用して多くの人から少額の寄付金や支援金を募り、結果的に大きな支援金を集めることができるのがクラウドファンディングです。自分のプロジェクトにどのくらい共感してもらえるかが重要になります。

このクラウドファンディングで目標額を上回る資金調達に成功し、カフェ・アトリエ・ラボ(実験室)の機能を併せ持つ空間、“VOID A PART”をオープンした代表の周防苑子さんと共同代表の牧貴史さんから、「VOID A PARTの誕生まで」の体験談をお話した

いただきました。当日はお二人に加え、滋賀銀行地域振興室長の船木敏男さん、県内で地域クラウドファンディングサービスを運営する(株)Wallaby 代表取締役の宮村利典さん、クラウドファンディング経験者の(株)井上 代表取締役の井上昌一さんといった専門家からもパネリストとして登壇し、挑戦しようと考えている若い参加者を前に、クラウドファンディングの利用で見落としがちな点と戦略的な活用について意見が交わされました。

秋村洋幹事がファシリテーターを務めました。

* 参加者 24人



■ 文化経済サロン② ビジネスカフェを共催しました

* (公財)びわ湖芸術文化財団、(公財)滋賀県産業支援プラザとの共催
[11月29日(水) 文化産業交流会館 会議室]

文化経済サロンは、講師からの話題提供をもとに参加された皆様に自由にディスカッションしていただく交流サロンです。

文化と産業の連携による産業振興モデルを模索するビジネスカフェ事業を共催しました。

今回は、伝統の技を次世代に受け継ごうと職人の手仕事による箸や茶碗、タオルなどの日用品を0～6歳の子供向けに販売している(株)和えるの西日本統括本部長 田房夏波さんにお話を伺いました。参加者には、伝統産業に関わる方もおられ、講演後の交流会で熱心に意見交換がされました。

* 参加者 22 人

12月

■ 国民文化祭の滋賀での開催に向けた勉強会をしました

[12月8日(金) コラボしが21 中会議室1]

昨年の国民文化祭の開催地・愛知県から愛知県県民生活部文化芸術課主任 中西由美子さん、主事 安藤正志さんをお招きして、文化庁の新たな実施方針のもと、短期間でコンパクトに開催された事例をお伺いしました。国民文化祭の気運を全県域に盛り上げていくことの難しさなど、今後滋賀で開催する道筋を考える良い機会となりました。

* 参加者 18 人



■ 文化経済サロン① トップセミナーを共催しました

* 滋賀県公立文化施設協議会との共催

[12月16日(土) びわ湖ホール 研修室、小ホール]

文化経済サロンとして、県内の公立文化施設の館長・所長または中堅職員の方などを対象としたセミナーを共催しました。

文化庁京都移転に向けて今年4月に設置された文化庁地域文化創生本部の星野有希枝さんをお招きし、文化芸術は地域の様々な課題の解決、活性化につながるお話や、文化庁や文化芸術基本法をご説明いただきました。講演後は、びわ湖ホール小ホールにて、声楽アンサンブルの定期公演を鑑賞しました。

* 参加者 29 人

■ 文化で滋賀を元気に！シンポジウム ～地域をはぐくむ観光とは～

文化、観光を概念から見つめ直すシンポジウムとなりました

[12月24日(日) ピアザ淡海 大会議室]

平成24年から開催してきた「近江屋」研究プロジェクトの報告会が昨年で終了し、今年は「文化で滋賀を元気に！シンポジウム」を開催することとなりました。

今回は、「地域文化をはぐくむ観光とは」というテーマで、十倉良一幹事がコーディネーターを務めました。

講演では、古民家等の歴史的建築物に着目し、「文化観光まちづくり」で地域創生に実績を上げる一般社団法人ノオト代表理事の金野幸雄さんを講師にお招きしました。金野さんは兵庫県篠山市で手がけるプロジェクトを例に、(観光客には)その土地で土地の人と同じ朝を迎えていただくこと、共感が大事であること、文化財は開発するものなどと、文化や観光、開発、まちづくりの概念を再定義するところから始められたことをご紹介いただきました。

パネルディスカッションでは、金野さんのほか、かばた(川端)の文化を守りながら観光客を受け入れる仕組みを作っているという「針江生水の里委員会」会長の三宅進さん、豊郷町で空き家を若い人が暮らすシェアハウスに改装する活動を行う「とよさと快蔵プロジェクト」の宮崎瑛圭さん、「(公社)びわこビジターズビューロー」の林俊介さんが登壇。林さんは、自転車で琵琶湖を一周する「ビワイチ」を県下の観光として取り組む課題を発言されました。誰(組織)が推進するのがよいかという質問に、金野さんは全てのステークホルダーを入れないこと、地域外の人も入れるべきであること、行政と地域の間の中間事業者の存在が有効であること、特に地域文化の「開発」に敏感なのは20代だとアドバイスされました。

* 参加者 70 人



金野幸雄さん



右から林さん、宮崎さん、三宅さん、金野さん、十倉幹事

連載 レポート近江屋考

「きのう、きょう、あす」②

歩くブログ記者 岸野 洋

京都新聞社友
前・(公財)滋賀県文化振興事業団理事長

今回は2回目、どんな近江屋を書くか。前の号、1回目は国民的歌手・藤山一郎さんのお母さんが京都から分家した東京の呉服商「近江屋」の女将だったことを元慶応大教授・池井優氏の著書「藤山一郎とその時代」で知って、近江屋の縁を紹介した。

さて、今回の近江屋だが、坂本龍馬暗殺から150年、その現場になった近江屋跡へ行った。京都きっての繁華街、河原町蛸薬師下ルである。成安造形大学・加藤賢治准教授らが担当した近江屋調査研究報告会で、京都霊山歴史資料館の木村幸比古館長がこの近江屋跡を取り上げ、当時の見取り図を示し、暗殺の経緯について講演してもらっている。その近江屋跡、今はどうなっているのか。



全国チェーンの回転寿司かっぱ、3年前から営業している。南側はコーヒー店、北側のレディースショップは、行ったおりは改装中だった。近江屋跡のかっぱ寿司、河原町

勝手に「歩くブログ記者」を自認して、名刺まで作って、毎日のようにぶらり、ぶらり歩く。この項の「レポート近江屋考」も、その肩書である。元新聞記者の経験を活かし、町を歩いて、何かを見つけ、写真を撮って…、継続は力なり〜と10年来、ブログ(洋洋日記)を毎日書いている。
文化・経済フォーラム滋賀では、発足当時から幹事を務め、滋賀県事業団理事長退任を機に役員を離れたが、まだ応援もしたいし、何かで関わりたい〜と、志願して、このレポートである。

通りの東側から見ると、3階建てビル、2、3階は黒塗り。アーケード下の店前に「坂本龍馬、中岡慎太郎遭難之地」と彫り込んだ古い石碑と京都市の駒札が立つ。ガラス板の中には、懐に手を入れてブーツを履いた龍馬の写真がある。一番よくみる龍馬の有名な写真である。京都市の立てた駒札、立ち止まって読むと、〜この地は慶応3年(1868)11月1日…〜の書き出しで始まり、刺客に襲われた経過が詳しく出ている。この近江屋さんは、醤油商。河原町通りを挟んで東へ100mほどの所にあった土佐藩邸の出入り業者だった。その縁あって、龍馬が下宿していたらしい。土佐藩邸は、日本映画原点の地という旧立誠小学校、高瀬川沿いに藩邸跡の碑があり、西側には龍馬らが参拝し土佐稲荷と言われた岬神社が建ち、龍馬像=写真右=もあった。



戻って、回転寿司にも入ってみた。龍馬惨劇の2階へ上がりたかったが、もらった番号席は1階の入り口近く。一人座って店内見わたすと、ところどころ、龍馬の顔写真コピーも。新しい時代へ、奔走した龍馬暗殺は、二条城の大政奉還1か月前、王政復古の号令1か月後、年明けてすぐ鳥羽伏見の戦いである。幕末から維新、慶応から明治へ150年、歴史転換の中にあつた近江屋を思う。

会員の皆様からの投稿を掲載いたします。ご希望の方は、事務局までご連絡ください。

多様な企業文化が作る地域社会
講師 小林 徹氏

第8回総会 一般参加プログラム【参加無料・要参加申込】
文化・経済フォーラム滋賀 講演会

2018年 2/18日
時間 14:00~15:55
場所 びわ湖大津プリンスホテル コンベンションホール「淡海」
大津市から無料シャトルバス(18:10開)

■講演会 「多様な企業文化が作る地域社会」
企業文化を滋賀の文化と経済の発展にどうつなげていくか考えます。
講師 小林 徹氏
オプテックスグループ株式会社 代表取締役兼 CEO

■「2017文化で滋賀を元気に！賞」表彰式
■びわ湖ホール声楽アンサンブル演奏会

16:05~18:30
■総会
■文化で滋賀を元気に！する提言発表
■交流会(参加費6,000円)

主催：文化・経済フォーラム滋賀 協力：公益財団法人びわ湖芸術文化財団
問合せ：文化・経済フォーラム滋賀事務局 〒520-0806 滋賀県大津市打出浜15-1
Tel:077-523-7146 FAX:077-523-7147

文化・経済フォーラム滋賀の活動は、皆様の会費で運営されています。

1月は、会員継続手続きの月です。ご案内を郵送させていただきますので、期限までの年会費の納入に、ご協力をお願いいたします。

